

パブリックコメントに伴う主な修正案 一覧

| パブコメ番号 | ご意見の内容  | 資料の頁番号 | 修正前  | 修正後   |
|--------|---|--------|--|---|
| 1      | 国の「健康日本 21(第三次)」では新規項目に「新」と記載されている。今回の基本計画で新規追加の項目を「新」と記載してはどうか。  | 17     | 指標一覧下部<br>※追加  | 指標一覧下部<br>※新規指標は11、24、26、27、29、31、33です。   |
| 8      | 「コロナ禍において外出の機会や家族・友人との減少…低下が危惧されます」とあるが、図15を見るとコロナ禍の中でも元気な高齢者割合が増えているので解釈に矛盾がある。コロナ禍の中では健康に対する意識が高くなり元気な高齢者が増えていると推定される。「引き続き、健康に対する意識を高めて効果的な介護予防とともに…」と表現すべきではないか。  | 9      | 65歳以上の元気な高齢者の割合については目標を達成していますが(図15)、コロナ禍において、外出の機会や家族・友人との交流が減少したこと等により、高齢者の身体機能・認知機能の低下が危惧されます。引き続き、効果的な介護予防とともに、認知症高齢者への支援に取り組む必要があります。                       | 65歳以上の元気な高齢者の割合については目標を達成していますが(図15)、後期高齢者の増加やコロナ禍の影響による高齢者の身体機能・認知機能の低下も危惧されるため、引き続き健康に対する意識を高めるとともに、効果的な介護予防や認知症高齢者への支援に取り組む必要があります。  |
| 9      | 「市民全体では飲酒の量が増加傾向にあり(図19)」とあるが、増加しているのは女性だけであるため、「市民全体では女性の飲酒の量が増加傾向にあり(図19)」と表現すべきではないか。  | 11     | 20歳未満の者や妊娠中の飲酒の割合は減少傾向ですが、市民全体では飲酒の量が増加傾向にあり(図19)、生活習慣病のリスクの高まりが懸念されています。今後も継続して飲酒による健康への影響や適量の飲酒の知識の啓発に取り組む必要があります。   | 20歳未満の者や妊娠中の飲酒の割合は減少傾向ですが、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている方の割合は男女ともに目標値を超えており、特に女性では大きく増加しています(図19)。今後も継続して飲酒による健康への影響や適量の飲酒の知識の啓発に取り組む必要があります。   |
| 14     | 「骨折」第1位となっていますが、骨折の原因は筋力(筋肉)の衰えでもある。運動習慣は手段であって目的ではない。「運動習慣により筋力、骨力を高める必要があります」と表現すべきではないか。   | 19     | 骨粗鬆症は骨折の大きな要因であり、若い時期のやせや閉経後の女性のホルモンの低下等が大きく影響しているため、若い世代からの骨粗鬆症の予防が必要です。<br><br>……<br>また、女性の健康づくりとして、骨粗鬆症による骨折を予防するため、骨粗鬆症に関する市民向け講座の実施や骨折リスクのチェックの普及などに取り組めます。 | 骨粗鬆症は骨折の大きな要因であり、若い時期のやせや閉経後の女性のホルモンの低下等が大きく影響しているため、若い世代からの骨粗鬆症の予防が必要です。また、高齢者など、筋力低下による転倒から骨折を起こすことも多いことから、筋力を高める取り組みも必要です。<br><br>……<br>また、女性の健康づくりとして、骨粗鬆症や転倒による骨折を予防するため、骨折予防に関する市民向け講座の実施や骨折リスクのチェックの普及などに取り組めます。 |
| 18     | 「心身の疲労回復には、十分な睡眠、休養…」とありますが、睡眠時間も大切ですが睡眠の質がもっと大切である。「心身の疲労回復には、良質な睡眠、十分な休養」と表現すべきではないか。   | 25     | 心身の疲労回復には、十分な睡眠、休養   | 心身の疲労回復には、十分かつ良質な睡眠、休養  |
| 20     | 20歳未満の者の飲酒は未成年者飲酒禁止法違反であるため、国の「健康日本 21(第三次)」48頁と同様に、20歳未満の者の飲酒は防止と明記すべきではないか。   | 26     | これらのリスクを考慮し、20歳未満の者はアルコールを摂取しないことが重要です。  | これらのリスクや法律上禁止されていることを踏まえ、20歳未満の者は飲酒を防止する必要があります。  |
| 22     | 国(健康日本21)の記載では、COPDの原因としては、たばこ煙の関与割合、喫煙者の発症割合。喫煙だけでなく、遺伝子因子、感染、大気汚染、幼少児期の問題なども原因として挙げられている。素案文言、「発症要因であるため」と決めつける文言はいかがなものか。素案の表現について、修正してもらいたい。  | 30     | ウ 取り組み施策(禁煙の支援)<br>「COPDは、喫煙が最大の発症要因であるため、禁煙による予防が効果的であるとともに、早期発見が重要です。禁煙支援薬局や、地域の様々な場を捉えた啓発を行います。」  | ウ 取組施策(禁煙の支援)<br>「COPDについては、禁煙による予防が効果的であるとともに、早期発見が重要であるため、禁煙支援薬局や、地域の様々な場を捉えた啓発を行います。」  |
| 25     | 第3次健康くまもと21基本計画(素案)について、「望まない受動喫煙を有する者減少」について、目標値が設定されているが、国の計画である健康日本21【第三次】の目標値は望まない受動喫煙のない社会の実現(定性目標)となっている。健康日本21における受動喫煙対策の目標は「望まない受動喫煙の防止」であり、目的を同じにする健康増進法の履行により達成することが可能と考えるため、国以上の厳しい目標設定は必要ないのではないかと。また、市が家庭における数値目標を掲げていることについて大変違和感を覚える。プライベートな空間まで行政が足を踏み入れることがあってはならない。国と同等の表現に修正してもらいたい。 | 17,29  | 項目14「受動喫煙の機会を有する者の減少」<br>目標値「行政機関 0.0%、医療機関 0.0%<br>職場 受動喫煙のない職場の実現<br>家庭 3.0%、飲食店 15.0%」  | 項目14「望まない受動喫煙の機会を有する者の減少」<br>目標値「望まない受動喫煙のない社会の実現」  |

| パブコメ番号 | ご意見の内容  | 資料の頁番号 | 修正前   | 修正後  |
|--------|---|--------|---|--|
| 29     | 20歳未満の喫煙防止は社会的に取り組むのは当然だが、加熱式たばこを紙巻たばこと同類として論ずるのはいかなるものか？加熱式たばこによる健康影響が明らかになっていない中での規制強化には反対する。取り組み施策において「学校や職場において加熱式たばこを含めたたばこの害について啓発します」とあるが、加熱式たばこを含める表現の修正をお願いしたい。(加熱式たばこでは燃焼による煙が発生しないこと、また副流煙が発生しないことから喫煙に伴う疾病リスクを低減出来る可能性がある。健康被害が明らかでない限り規制強化を行うべきではない。)  | 30     | ウ 取り組み施策(禁煙の支援)<br>「学校や職場等において、 <u>加熱式を含めたたばこの害</u> について啓発します。」                                   | ウ 取組施策(禁煙の支援)<br>「学校や職場等において、 <u>たばこの害</u> について啓発します。」   |
| 33     | 「本市の健康課題である「CKD(慢性腎臓病)」への対策は、」とあるが、分かりづらい。人工透析は知っているがCKDはよく知らない。「本市の人工透析患者の割合は全国平均より高く、CKD(慢性腎臓病)対策は本市の健康課題です。…」と表現すべき。   | 30     | 本市の主要な死亡原因である「がん」「循環器疾患」に加え、重大な合併症を引き起こす「糖尿病」や本市の健康課題である「CKD(慢性腎臓病)」への対策は、市民の健康寿命の延伸を図る上で重要な課題です。 | 本市の主要な死亡原因である「がん」「循環器疾患」に加え、重大な合併症を引き起こす「糖尿病」や、本市の健康課題であり人工透析の原因となる「CKD(慢性腎臓病)」への対策は、市民の健康寿命の延伸を図る上で重要な課題です。                                   |
| 34     | 「全国平均と比較しても高い水準」と言葉で書くよりグラフで示したら一目瞭然であるので、ネットワークで進める熊本市CKD(慢性腎臓病)対策HPのグラフを入れたらいかがか？   | 38     | 本市の人工透析者数の割合は、全国平均と比較しても高い水準にあり、  | 本市の人口10万人あたりの人工透析実施件数は、20政令市中第1位と多く(令和2年医療施設調査)、   |
| 39     | 熊本市のむし歯が非常に多いのにびっくりした。「科学的根拠に基づくむし歯の発症予防と重症化予防に取り組む」とあるが、まずは原因を見つける必要があるのでは。フッ化物によるむし歯予防とあるが、原因の対策を取らないと、無駄なお金を使っているように思う。  | 156    | 〈現状と課題〉<br>乳歯のむし歯は永久歯にも影響を及ぼすことがあり、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりのためには乳歯の時期からむし歯予防に取り組む必要があります。                 | 〈現状と課題〉<br>むし歯の発生にはむし歯の原因菌の存在に加えて、歯の質や生活習慣が関連することが分かっています。乳歯のむし歯は永久歯にも影響を及ぼすことがあり、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりのためには乳歯が生え始める時期からむし歯予防に取り組む必要があります。          |
| 41     | PやC以外に破折が原因、それを招来する疾患として、口腔がんや顎骨壊死が紹介されているが、そういう類の破折よりも、文字通り、咬合という繰り返し荷重による物理的破折のほうが、はるかに頻度は高い。日常のごく普通の咀嚼行為により起こる破折である。これは、非感染性の力学的破壊の結果であるため、いくらFを使用しようとも、あるいは歯磨きをしようとも、絶対に予防できないもの。そのことが、歯の喪失原因の17%を占める、ということを知らせないと、市民も歯科医療人も、真実から外れたところで無駄な努力を強いられることになる。実は、よく噛むこと、これは年代によって効果が全く逆方向に現れ、60歳代以降の人が、バリバリ堅いものを食べるのは、歯にとっては自殺行為にほかならない。 | 158    | 歯を失う原因①<br>けがによる  | 歯を失う原因①<br>加齢、咀嚼行為による負荷やけがなどによる  |
| 44     | 現在、8020推進員として小学校のフッ化洗口活動を行っている。せっかく幼児期から続けているフッ化物洗口を、乳歯が永久歯へ生え変わっていく大事な時期の2年生で終わる現在の状況をとても残念に思っている。熊本市のこどものむし歯が多い状況の改善はもちろんのこと、大人になり80歳まで20本以上自分の歯を残して楽しい生活を送るためにも、義務教育期間中の「中学校までフッ化物洗口実施学年の拡大を目指します」としてはどうか。   | 163    | 〈主な取組〉<br>・フッ化物洗口を実施する保育所等の増加に向け、集団フッ化物洗口の意義や効果に関する啓発の強化に取り組めます<br>・小学校におけるフッ化物洗口の実施学年の拡大を目指します   | 〈主な取組〉<br>・フッ化物洗口を実施する保育所等の増加に向け、集団フッ化物洗口の意義や安全性、効果に関する啓発の強化に取り組めます<br>・小学校におけるフッ化物洗口の実施学年の拡大について関係部署・関係機関と連携して取り組めます<br>・中学校におけるフッ化物洗口に取り組めます |